読まれ、親しまれる『広報』に

●●●広報アンケート調査から●●● ①

「広報なんこく」は、市政発足（昭和三十四年十月一日）と共に生ぶ声をあげ、二十四年めを歩んでいる。そして今、数えること三百七十四号を迎えることになりました。広報は、これからも「市民と市政とのパイプ役」としての責務を果して行かなければならないし、このアンケート調査を契機に、さらに市民に役立つ広報紙を目ざします。なお、このアンケート調査は、昨年七月に行ったもので、今号から連続して掲載していきます。広報について、あなたも関心を深めてほしいと思います。

広報南国

南国（なんこく）市発足
初代市長に西村氏

昭和34年10月20日発行の「広報南国創刊号」の１ページ

アンケートのあらまし

▨調査のねらい

①情報社会の中で、「広報なんこく」の果たす役割はいかに―。今までの広報紙の反省材料にし、これからの広報紙づくりの参考にする。

②市民に読まれ、親しまれる広報紙をめざす。

③多種多様な行政からのお知らせが、市民にくまなく行き届いているかどうか。

④市民が広報に対して何を望んでいるか。……などの目的で調査した。

▨調査の方法

市内の十三小学校の六年生の家族を対象とし、児童にアンケート用紙を渡し、家族に記入してもらったものを回収した。

対象生徒数は六百人で、小学六年生を選んだのは、兄弟や姉妹と父母、祖父母の三代そろった一般的な家庭が多いであろうと推察した。また、この方法だと回収率が郵送などの方法よりも良く、郵送料の節約にもなる。

▨結果のあらまし

回収された調査票は表1をみると、全体で六百人中五百二人で、回収率八三・六％となっている。

生徒、父兄、先生の協力があって、郵送などによるアンケート調査よりも高い回収率ではないかと思われる。

表1

小学校名	生徒数	回収人数	回収率
十　市	38 人	38 人	100 %
稲　生	26	19	73.0
三　和	57	43	75.4
大　篠	125	113	90.4
日　章	75	67	89.3
大　湊	36	28	77.7
後免野田	44	38	86.3
長　岡	75	57	76.0
国　府	18	18	100
久礼田	43	36	83.7
岡　豊	46	28	60.8
奈　路	5	5	100
白木谷	12	12	100
計	600	502	83.6

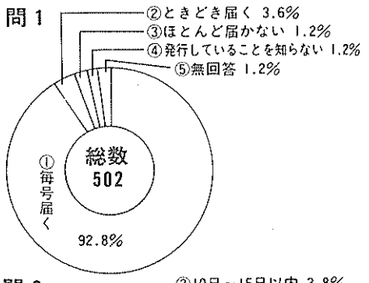
「毎号届く」が92・8％
連絡員制度に理解を

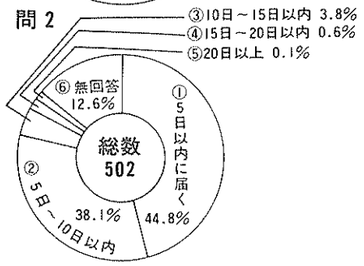
問1　あなたのご家庭に「広報なんこく」は―。

①毎号届く　92・8
②ときどき届く　3・6
③ほとんど届かない　1・2
④発行していることを知らない　1・2
⑤無回答　1・2

問2　毎月一日と十五日の二回発行していますが、あなたのご家庭に届くのは―。

①発行から五日以内　44・8
②五日～十日以内　38・1
③十日～十五日以内　3・8
④十五日～二十日以内　0・6
⑤二十日以上　0・1
⑥無回答　12・6





A・毎号届く家庭が全体の九二・八％で、ある程度高い数値だが、全戸配布という広報のもつ理念からいえば低いといえる。逆に、ときどき届く、ほとんど届かない、発行しているのを知らないの合計が六・〇％と、残念な数値が出ている。この原因の調査をする必要がある。

B・南国市は、広報紙の配布、その他の回覧文書など、独自の連絡員制度（部落連絡員）によって各戸配布、または回覧しているが、この制度そのものは崩したくない。しかし、市外から転入されたかたにはなじみが薄いのではないか。「部落入り」とか「ご近所づきあい」をおっくうがる人もいるようだ。

C・個人郵送や新聞折込みによる方法だと、膨大な費用がかかるし考えものだ。

広報・回覧板は重要な役割

問3・あなたやあなたのご家族は、市政や市の行事を何で知りますか。

①広報なんこく　52・4
②回覧板　22・0
③議員から聞く　0・7
④人から聞く　5・6
⑤市政こん談会や説明会　0・6
⑥直接市役所に聞く　0・1
⑦新聞やテレビ、ラジオ　16・1
⑧その他　0・6
⑨無回答　1・9

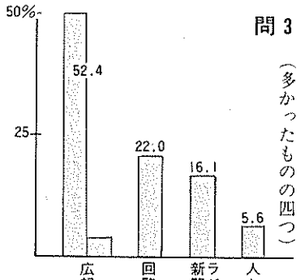
A・広報なんこくで、市政や市の行事を知る人が全体の約半数。この数字はやや期待外れ低いが、ほかのものと比べると群をぬいている。「読まれ、親しまれる広報づくり」は広報マンのもつ宿命、この数字をもっと上げる努力がいる。

B・回覧板も役立っている。しかし、広報マンから言えば、連絡員さんのご苦労もあるので、回覧文書は少なくして、広報の中に取り上げたい。

C・新聞、テレビ、ラジオは、ほとんどの人が毎日読んだり、見たりするから納得がいく。それにローカル記事もたくさん載っているし、その日の話題や事件がすぐ知ることができる即応性がある。

D・議員から聞く、市政こん談会や説明会、直接市役所に聞くがそれぞれ低いが…。

E・市政こん談会や説明会は、市民が参加できるように夜開かれることが多いが、どこの地区へ行っても二十～三十人程度で、参加者が少ない。それに、市役所へ直接聞くとなると、勇気がいるとか?、おっくうがる人がいるみたいだ。



D・広報紙を見なくても、日常生活には困らないかも知れないが、行政の大事なお知らせや、ゴミの収集日程など、市民として最低知っておいてもらいたいことなどを掲載しているので、届かない家庭は、広報係へ連絡してほしい。協議して良い方法を見つけたい。特に小さいお子さんを持つ家庭は、検診日程なども載っているから。

E・発行された広報が、十日以内に届いている家庭は全体で八二・九％と高い率を示しうれしいことだが、すべての家庭へ早く届くようにしたい。

十五～二十日以上もかかっていると、情報が遅れて残念だ。

F・月二回であるので、連絡員さんもご苦労が多い。苦情もときどき耳にするが、部落の人がみんなで協力し合ってほしい。

G・発送が一～二日くらい遅れることがあるが、編集者も十分注意しなくてはならない。